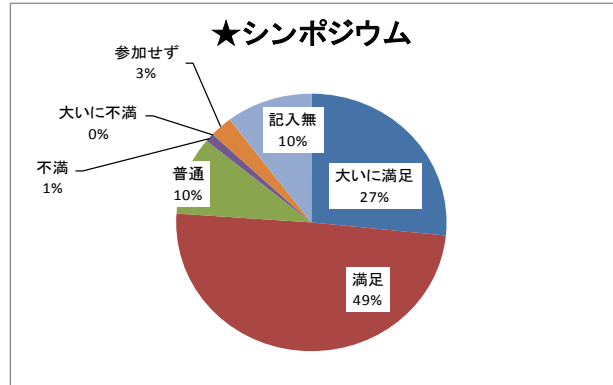
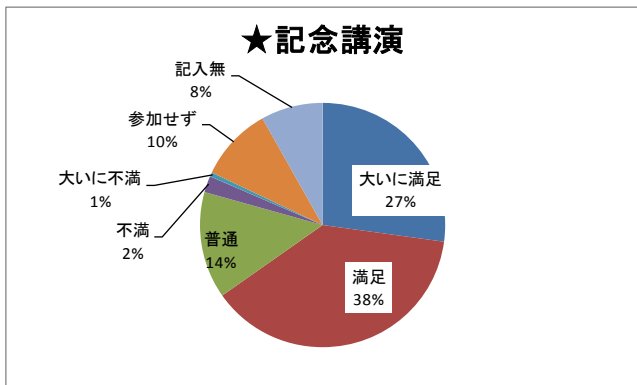
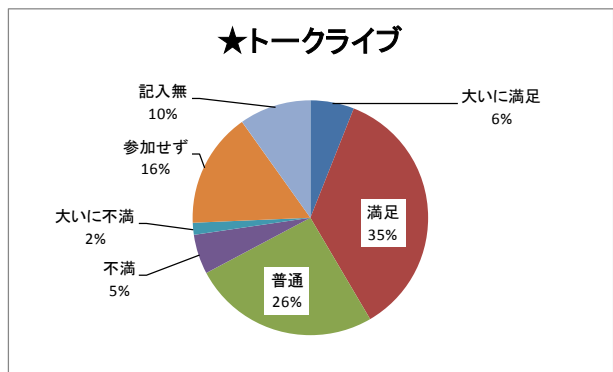
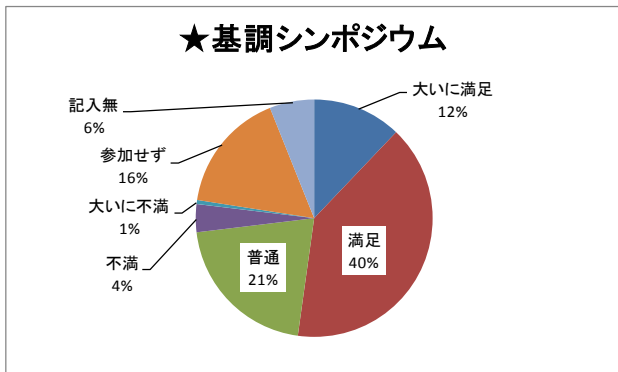
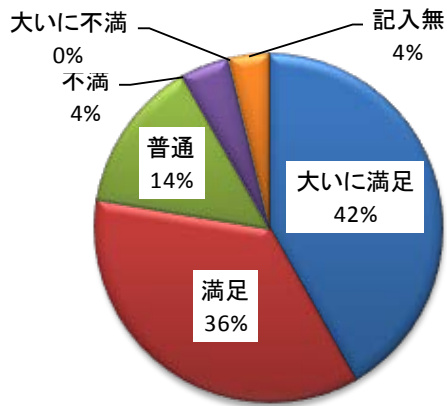


【問2】リカバリー全国フォーラム2011のプログラムについてお聞きします。

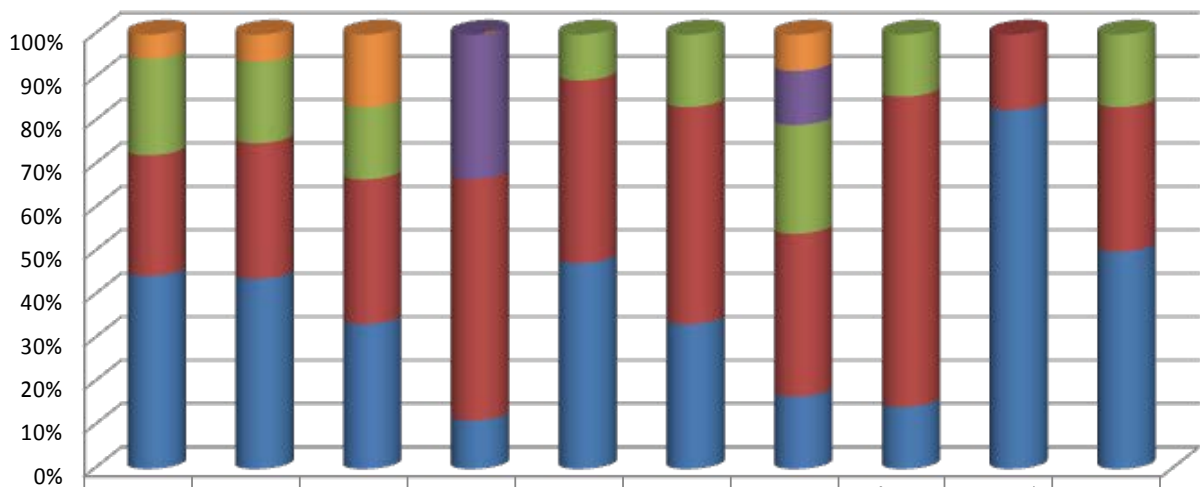
①プログラムは満足していただけましたか？



★分科会1日目★

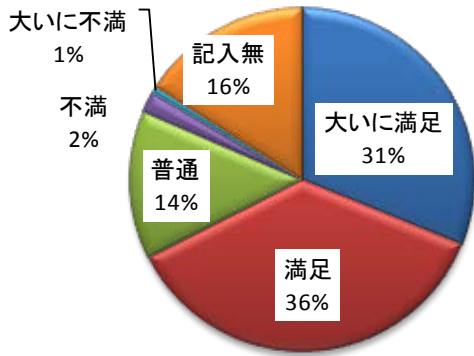


分科会別(初日)



	1リカ宣	2働く	3FtoF	4看護	5アンチステイグマ	6医療	7地域移行	8ピアサポ	9こんぼ亭	10リワーク
■ 記入無	1	1	1	0	0	0	2	0	0	0
■ 大いに不満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 不満	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0
■ 普通	4	3	1	0	2	1	6	1	0	1
■ 満足	5	5	2	5	8	3	9	5	4	2
■ 大いに満足	8	7	2	1	9	2	4	1	19	3

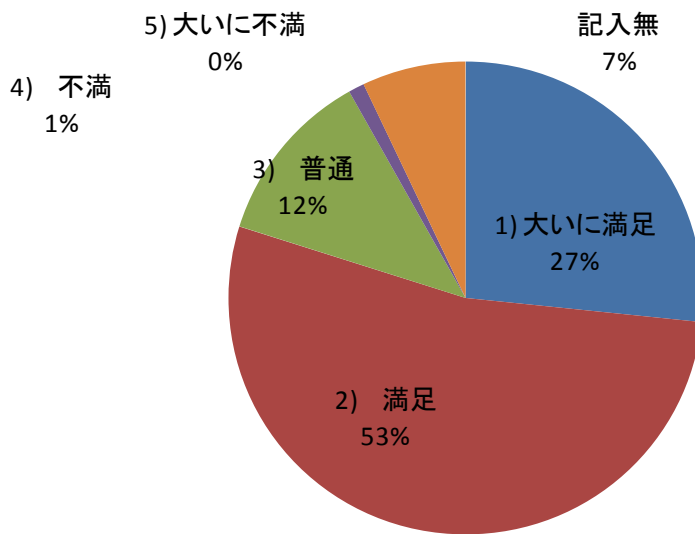
★分科会2日目★



分科会別(2日目)

	12WRAP	13IPS	14家族支援	15ACT	16権利擁護	17地活	18MHシステム	19ピアサポート	20IMR	21震災	22家族
記入無	2	2	4	2	3	4	0	2	5	0	0
大いに不満	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
不満	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0
普通	2	0	2	5	1	5	0	3	3	0	0
満足	6	4	4	6	2	7	7	4	8	7	0
大いに満足	5	7	2	2	4	3	5	4	7	6	2

②全体的に満足していただきましたか？



③ ②のご回答の理由をお教えてください

1) 「大いに満足」を選ばれた方のコメント

- ◆ 初めて参加させていただきました。会場まで遠かったり、当事者と一緒にはまたは当事者を家に待たせて参加することが難しかったりと参加したくともなかなか参加できない方も多いと思います。自分が参加する外の分科会の様子が冊子で紹介されていて、情報としてもありがたいと思いました。宇田川健さんのファンです。こころの元気+の最後の文章も楽しみにしています。お体を大切にされてまた、お会い（お読会い？）できることを楽しみにしています。分科会での発表や家族学習会もたいへん参考、勉強になりましたが可能なら全員が参加できる家族学習会がいくつもあると私のような初心者で話したい家族はより満足したのではないかと思います。家族はだれもが話したいのですから。
- ◆ 家族の立場として地域で活動をすすめる糧となっております、より多くの人々の理解を得て元気をとりもどしたいと思います。
- ◆ 最新の情報を聞くことができた。新たな刺激を受け、これからの仕事のモチベーションにつながると思う。
- ◆ 私にとって大事なことを見つけられた感覚があった。
- ◆ 自分の気持ちをそのまま、直球の意見が多数とびかっていた。
- ◆ いろんな分野の方の話が聞け、話し合いもできた。記念講演やシンポジウムでは、これから向かおうとしている方向が見えてきて自分がやるべきことを立ち止まって考えられたこと。私はトークライブのふりかえりの時間があつたがむずかしかった。ふり返る時間で、パネラーにもっと話を聞きたかった。
- ◆ いろいろと学べたため。
- ◆ いろいろな方とお話ができて新鮮でした。
- ◆ リカバリーについて、これでいい、ということではなく、ずっと考え続けることだと思いますので。このような考え、の上に、色々なサポートや活動がある。その根幹、根源をなすものだと思います。あまり、かたい言葉だと、入りにくい印象はうけた。
- ◆ 普段の悩みを少し解消することができたため。
- ◆ 色々な視点からリカバリーを学べてよかったです。
- ◆ リカバリーフォーラムに参加している人は意識の高い人が多く、自分ももっと頑張ろうと思える。病院ではまだリカバリーの概念が根付いておらず、たまに自分を見失うことがあるので
- ◆ 収穫がたくさんあったから。
- ◆ とても、良かったと思ったのは、私自身悩んでいる事の答えやヒントを得る事ができました。

- ◆ 自分の役に立ちそうな体験談や お話が聞けたので良かった。
- ◆ 専門職と当事者が対等なパートナーシップですべてが運営されていること。リカバリー、当事者中心、ピアサポーター等、重要なキーワードが生かされているフォーラムでした。
- ◆ 参加者の意識が、このフォーラムにくると、話をしなくても一致している感覚があります。又、ゲストの方の選出もとてもセンスがあると思います。2)にも〇したのは、やはり当事者出演の方、が成功(?)者の方にかたよっていて、家族の方からの反応も???となるのは解るので、これからの課題ではないでしょうか。
- ◆ 良い体験談が聞け勉強になりました。
- ◆ 様々な方面からの、きっちりとした実践と、深い話が聞けたので勉強になりました。
- ◆ 基調シンポジウムの宇田川さんのリカバリーの話に共感しました。個人的な事を言えば、1日目の分科会のワークショップに参加して有意義でしたが疲れてしまいました。(ワークショップは苦手な方なもので)
- ◆ おもしろかった。(自分の能力を引き出してくれた)
- ◆ 基調シンポジウムはシンポジストの方の正直な話がきけて良かったです。特に宇田川さんのお話は感動的でした。トークライブで最初に各被災地のスライドがうつされた時には胸がつまりましたが、お話をきいていると“どっこい生きている”と何故か言葉が浮かんできました。分科会では、当事者の方が次々に“リカバリー宣言”されるのをきいていると元気が出ました。
- ◆ 前向きに考えること(Recovery)とともに避けられない震災を経験した方も聞き、人に寄り添うことの難しさ、大切さを学べたから。
- ◆ わかりやすい内容、実態、経験による生の声を聴けた。
- ◆ リカバリーについて、支援について、様々なことに関して新たな発見になり、今までとは違う見方や考え方を聞けて、とても勉強になりました。今後の支援にぜひ生かしていきたいと思います。
- ◆ 当事者・家族・支援者が同じ土俵で話し合える雰囲気がいい。
- ◆ 強制がなかったこと。大切と思われていたことが網羅されていた。
- ◆ リカバリーそのものを知らずピアカウンセラーの存在もはっきり見えました。支援でいまいきづまっているので何か打開できそうです。
- ◆ いろんな人に出会えて、いろんな考え方を知れたのがよかったです。
- ◆ 講師の人がおもしろかった。
- ◆ いっぱい、いっぱい学ぶことができました！素敵な実践者たちとの出会いができました！いっぱい、いっぱい、笑い、泣きながら参加でき、元気をいっぱいもらいました！おもしろかったし、楽しい2日間でした！この分科会を選び抜いた自分に拍手！
- ◆ 改めてリカバリーについて見つめ直すことができました。
- ◆ リカバリーに対する専門職としての取り組みの中で役立てられる家族に対する支援の大切さ。
- ◆ どのプログラムももっと聞きたい！と思うと同時に、自分で今回の学びや投げかけを現場でつなぎ、深めていくきっかけに大いになってこと思うから。来年のリカバリー全国フォーラムも楽しみにしています。
- ◆ ふだん作業所や病院関係の人としか話しができないので色々な話しが聞けて良かったです。
- ◆ 当事者の方が地域支援センターやピアカウンセラーとして活動している姿を聞く事が出来た事。家族が支援し、支援されながら成長している事。
- ◆ 漠然としていた自分の悩みが解決された。
- ◆ 考えることのきっかけを見つけることができましたし、こういう場にふれていないとダメになってしまうなあと思えたので、とてもおもしろかったです。
- ◆ シンポジウム3人のピアスタッフのお話がよかったです。リカバリー=回復→成長ということ。
- ◆ これから、ルーテル大学の資料を使ったI. M. Rに参加するので今回の分科会をたのしみにしていました。IMR、終了者の意見も聞けてとても参考になりました。
- ◆ やっぱり元気になれる。
- ◆ これだけ豊富な分科会があることが素晴らしい。どれもおもしろそうで、選ぶのに悩みました。
- ◆ ピアのかや、リカバリーの知識を大いに伝えてくださっていたと思うので。ありがとうございました。

2) 「満足」を選ばれた方のコメント

- ◆ リカバリーについて勉強になったため。
- ◆ ピアの力に触れることができた、今後もっとピア活動が普及していけばと思います。「当事者の力を信じる」ことが、今までできていたのかハッとしました。信じていきたいと思います。
- ◆ 全体的にとっても良かったが、残念なのはトークライブの進め方にももう少し工夫があればということです。
- ◆ 色々な立場の人がいて、色々な話が聞けて良かった。

- ◆ 仕事の都合上、2日間参加できず、1日目の流れが分からなかったのに①ではありません。しかし、有意義でも元気になりました。分科会は楽しかったです。支援者は、同じような所につまずいたり、いきづまっていることを知りました。ありがとうございました。
- ◆ 実践するまでに至るのがむずかしい現状を考えると・・・。
- ◆ さまざまな出会いがあったので、良かった。全国で活躍している当事者の生の声が聞けて、良かった。販売のブースも、もっとゆっくり見たいくらい充実していた。
- ◆ いろいろな方と出会えました。
- ◆ 当事者の方々の実際の声が聞け、感じる事ができて良かった。専門職としての自覚をし（直すべきだと感じている、ありがとうございました）。
- ◆ 分科会がおもしろかった。
- ◆ 文章だけでない生の話が聞くことが出来てよかった。
- ◆ 私の「リカバリー」の理解の中に、「ピアサポーター」「ピアスペシャリスト」の考え方が今回の参加で加わったこと。
- ◆ 当事者自身のお話が聴け、具体的で分りやすかった。
- ◆ 分科会が内容が良かった。
- ◆ 会場のその場の意見をうまく取り入れながら会が進められたことがとても良かった。このフォーラムに参加して元気が出た。
- ◆ 初めての参加なので、どの様な内容でも、それなりの感動はあると思うが、もっと現実の事例を出しても良いのではないかと？
- ◆ 講演についてはほぼ満足。時間がないのに、司会がパネリストの仲間が来てからその方々に話してもらおうと振っていた。スタッフの人に質問しても即座には答えは返って来ない。分科会以外は安田講堂でやることも答えられないスタッフがいた。スタッフの勉強不足が目立っていた。今年の数なら文京学院大学だけでよかったと思う、徒歩でつかれた。
- ◆ 分科会多すぎてどうしたらよいのか迷いますし、タイトルだけできめるのは難しいです。当日のレジメをみてからきめられるとよいのですが。
- ◆ 自分のリカバリーについて、少し消化不良の部分があった。
- ◆ 発言者の個性と考え方、リカバリーの実践報告が楽しく、うなる内容だった。子どものいる人、しんどくて椅子に座り続けることが困難な方に全く事前の配慮がなく非常にながかりした。（私の知っている所では託児サービスの予約が申込時にあり、またごろごろできる休憩が用意されたり、外でモニター視聴ができるし床にすわって気楽に自分のスペースで見れる）などがあった。当事者参加を意識しない催事でできることをここでできない発想をすることに驚いた。
- ◆ 私のリカバリーは、45才になる当事者・息子をありのまま認めること。口うるさく言うのを止めました。ところが私自信ストレスが高くなりそうです。
- ◆ 自身のリカバリー体験を共有したかったが、他の人のリカバリー体験には共感できた。
- ◆ プログラムによっては聞きにくかったり、わかりにくかったりしたが、その他のプログラムはとてもよかった。とくに分科会は自分が聞きたい、やりたいプログラムがえらべたので、自分がしりたいことがしれたのは満足でした
- ◆ 午前部は難しい言葉が多くてわからない事が多かったが、分科会は2日共楽しかった。
- ◆ 初めての参加でしたが、当事者の元気がどこからくるのかわかったように思えました。今後もいろんな関わりをもっていければと感じました。精神は未知の分野でしたが、何となく支援方法のひとつがわかってきたように思えました。
- ◆ 会場が2ヶ所に別れていたことが、やや不便だった。分科会5*はとても興味深かった。トークライブやシンポジウムのように大会場で行うプログラムは、内容がつまりすぎて少し大変だった。会場と壇上とのやりとりが長くとれていたことが良かった。 *分科会5:アンチスティグマとリカバリー
- ◆ 普通の仕事の中では、じっくりと考えることができないテーマについて当事者又はその家族の方々の生の意見をきくことで、自分なりに新しい発見が出来たり、改めて学ぶことができたので良かったです。
- ◆ 実際に当事者の方々の経験、気持ちなどを通してリアルなリカバリーの勉強ができた。
- ◆ <トークライブ>の中で、当事者に阿る（おもねる）ように感じる部分がありました。それは、ある意味逆差別ではないでしょうか。<分科会20*>について当事者の意見は、良かったです。それだけです。専門職からの話は、もっと深めた話を聞きたかったのですが、内容が薄っぺらでした。*分科会20:IMR(疾病管理とリカバリー)
- ◆ 将来の精神保健医療福祉のあり方に希望のもてる内容だったと思います。

- ◆ 分科会では自分が参加したいと思ったもの、興味深いものに参加できたので楽しく学ぶことが出来ました。シンポジウムでは休む時間が少なかったのが大変でした。しかし、こんなに多くの当事者の方の話を聞く機会はなかなかないので良かったです。
- ◆ 内容が充実していた。
- ◆ 自分自身判らない部分の内容でしたので少しでも判りたいと思って参加しました。具体的な面もあり、少し判ったような気がしたような気がしました。
- ◆ 色々な人々が集まり話がきけてよかった。
- ◆ 元気な当事者の方たちのお話を十分に聞けたこと。

3) 「普通」を選ばれた方のコメント

- ◆ 2日目のWRAPのファシリテーターは声が小さく何を言われているのか分かりませんでした。質問するのもイヤになるくらいに思いました。あまり、WRAPがよく分かりませんでした。やはり、ファシリテーターは明るく大きな声の人が良いと思います。
- ◆ 内容はとても良かったのですが、分科会でパワーポイントを使う場合資料がないと後で思い出せない。説明を聞きながらメモすることもなかなか出来ないのも、是非資料をつけて下さい。
- ◆ もう少し分科会の形式の種類を選択する段階で知りたいというのが本音です。
- ◆ メインテーマと関係が薄い内容が目立った。
- ◆ 理由がない。視点に？
- ◆ 参加費が高いから。
- ◆ ①新しい知識を得られた為。②看護の分野はあまり進んでいないと感じた。残念であった。最新の知識が得られるかと思っただけ、あまり精神科看護は変化していなかった。臨床を離れて、新しい知識を得ようと思っただけ・・・。進んでいない現実を知れて良かったかもしれません。
- ◆ 初めて参加しました。世の中、リカバリー、ストレングスと横文字が多い中、事業所の利用者は、日々、自分達の生活に悩んでいます。自分なりにリカバリーの意味を調べたりするのですが、広すぎてなかなか内容が理解できません。今回期待をもって参加したのですが、発表内容は、もうできあがった人達の意見が多く、自分の現状とのちがいがばかりがはっきりしてしまいました。
- ◆ ピアサポートの明確なイメージをつかむことができなかった。分科会1日目はグループの人数が多すぎて話合いが深まらなかった。質問の時間が少なかった。分科会2日目はよく練られたプログラムだったと思う。
- ◆ 何偏も耳にしている体験はきちょうですがありふれている。
- ◆ 時間不足で食い足りなかった。
- ◆ もっとリカバリーを体験した人の体験談を聞いてみたい。ムズカシクてシンポジウムは興味もてませんでした。トークライブは話が生の声でムズカシクなくて良かったです。講演はつまらなくて眠かった。シンポジウムもイマひとつでした。分科会が良かったです。
- ◆ あまり目新しい話、情報がなかった。
- ◆ 当事者をサポートする立場の方々、ピアサポートの視点に立って、傾聴と同情の念を深く抱いて、問題解決の為の適切な助言を行う必要があると思いました！！

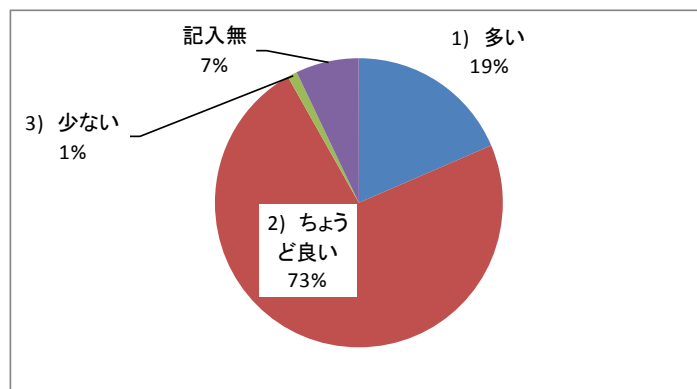
4) 「不満」を選ばれた方のコメント

- ◆ 高い参加料を払っていても、ここは良かったというのが1つでもあれば良いのですが・・・、参加料を半額にして下さい。相川さん*の報告はすばらしかったですね、日本の見本としての先進地の単純紹介でなく評価をしっかりとっていて、時間の配慮で早口で、しかし、とてもしっかり整理されていて頭の良い人だなあと感心してしまいました。この報告はゆっくりおききたいです。 *シンポジスト(2日目)のお一人
- ◆ こどく感を感じた。

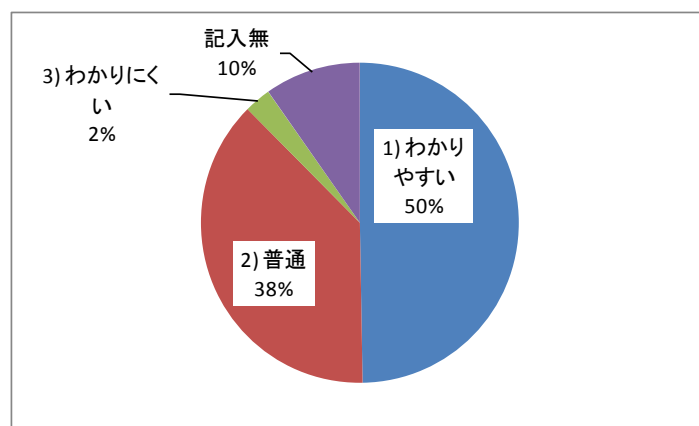
※コメントのみのご記入

- ◆ 全体を通じて話して頂いた内容には一切不満はありません。本当に貴重なお話をありがとうございました。ただ、運営に対してすごく不快に感じました。多くの方に質問の時間をとったり、時間の予定があるのはわかります。でも質問、意見をくださった方一人一人を大切に扱わず多くの意見をひろっても結局うすくなってしまった気がします。質問をくださった方にマイクを戻さず、進めるのはすごくおさまり悪い気持ちでした。1日目のトークライブは、一番感じました。最後時間が押し、途中自主退場の流れになりました。その流れは仕方ないと思います。ただ、そうする前に話してくださった方に拍手を一度送り、場をしめるべきではなかったでしょうか。そこまでして行ったことは「味わう時間」・・・「味わう時間」をいうなら、司会の方がコメントを挟む前にとってほしいとも思いました。最後も司会の方の言葉でしめていました。大切なのはもっとあるのでは・・・とすごく気持ちがわるかったです。乱文すみませんでした。
- ◆ 第7分科会*のグループワーク（意見交換）は、ファシリテーターの方がもう少しグループを仕切って下さると均等に全員がお話できたと思います。（1人の方がずっとしゃべりっぱなしでした。）ですが、終了後、司会の先生が「名刺交換して帰って下さいね」的なことを仰って頂けたので、けっこう交流ができました。 *第7分科会：ピア活動が切り開く地域移行・地域定着支援
- ◆ 分科会7は会場がせまく、集中して話をきくことができなかった。*分科会7：ピア活動が切り開く地域移行・地域定着支援
- ◆ 話合いをしてる中千差万別と言う話しもあり皆々1人1人同じ統合失調症でも皆、いろいろだということ。当事者で、よく話し合っ、やっていくとよい
- ◆ 1日目の基調シンポジウムは大島さんの話しがちょうど終る頃、遅れての参加でした。遅れて来た事として、あまり言える事ではないのですが、1時間半の時間中、自分が話したいことを長々と話されている人がいました。他の発言者の時間や、一番大切に考えていたように思われる、会場とのやりとりの時間がとって少なくなってしまったのが残念です。何のためのシンポジウム？リカバリーフォーラム？とってしまいました。でも逆に遅れてきてちょうど良かったです。去年もあったように当事者としてはこの2日間中密なスケジュールはハードなので、余計な時間に体力を消もうしないで済んだので！！

④ プログラムの数はいかがでしたか？



⑤ プログラムの内容はいかがでしたか？



⑥ 次回リカバリー全国フォーラムを実施する際に、どのようなプログラムがあると良いですか？

- ◆ シンポジスト鈴木さん*磯田さん*、自分の未来を自分の手で作る「花の咲くのはこれからなのにつぼみのままでもいいわと言うの？」最高です。娘の未来が明るくなるような気がしました（鈴木さん）。辰村さん*、苦労も元気に話され元気をいただきました。みなさんお話がとてもお上手で引き込まれました。相川さん*アメリカのお話ありがとうございました。 *シンポジスト（2日目）
- ◆ 統合失調症+加齢の問題を取り上げて欲しい。（当事者&家族 e t c）
- ◆ 質疑応答、議論の時間を多くとれるプログラム構成があるとよいと思います。参加できる分科会の数を2つから3～4つにしてほしい。
- ◆ 昨年、分科会で恋愛、結婚の分科会がありました。私はグループに分けてほしいと言いましたが、担当者は今回は試行なのでと言われました。でも今回はこの分野はありませんでした。この分野はとても大切だと思います。
- ◆ 当事者研究
- ◆ ピア活動のその後の展開、広がり…。東日本大震災、被災地域のその後。地域精神保健福祉ネットワークのいくつかの地域の活動事例（全体会で紹介）（新たな地域精神保健福祉システムの成功事例）
- ◆ 自立支援とエンパワメントについて
- ◆ 病院スタッフ（医療従事者）VS地域スタッフ（笑）
- ◆ 精神保健福祉の在り方について最後にかんたんな提言を残せるようなプログラム
- ◆ 家族同士で（同じ問題を）話す分科会があったら
- ◆ 「こんぼ亭」「WRAP」をまた行ってほしい。
- ◆ ピアサーポーターの部屋など。
- ◆ もっと、当事者の方”発”のプログラム。
- ◆ 分科会などは今日のような参加型が多い形式で良いと思います。ただ学会とした形で開催するのであれば、時間、休憩をずらさないようにすることと、基調は講演としてきちんと始めた方が良いと思います。
- ◆ 犯罪、医療観察法に関すること。
- ◆ ストレングスモデルのお話
- ◆ クラブハウスモデルの紹介。EBPのひとつであるし、興味をもっている人が結構いるので
- ◆ 今回の地震のように、その時の事をやって欲しいです。
- ◆ 当事者本人が主さいする分科会を沢山作って欲しい。
- ◆ 政治的なこともおそれず
- ◆ 当事者が権利を行使する力を高めるための支援方法、支援プログラムをもっと入れてほしい（学びたい）。WRAPのようなプログラムが非常に重要と思います。「社会生活力」を当事者が身につけられるような取り組みを学びたい。
- ◆ リカバリーを実施しているところの紹介が多くあったので さらに多く紹介してほしい
- ◆ クロージングの時に、当事者の方、ご家族の方とお話ができてうれしかったです。初めからそういう知らない人同士のグループをつくるのは難しいと思いますが、1日目の終わりなどにもそういう機会があれば嬉しいです。
- ◆ リカバリーの過程。何名かの紹介。
- ◆ 内容豊かにしてください。
- ◆ もう少しメインテーマのみではなく多様なものがあればいい。
- ◆ 地域へ退院させていくことに反対する意見の人の話しがあると良いと思います。
- ◆ 触法関係のリカバリー
- ◆ EBPに関するものを学ぶ機会がほしい。スペシャルゲストの講演をききたい。
- ◆ 当事者の元気模様。特例小会社関連。職親事業の案内。当事者目線。フォーラムのチラシやホームページをもっと分かりやすく表現して下さい。分科会を選ぶのに大変苦勞します。プログラムを見て、分科会を変更したくても受けつけてもらえません。もう少しフレキシブルであって欲しい。
- ◆ 「当事者による当事者のための当事者研究」→主役はピアの仲間たち。「地域定着支援」と職場定着支援」→暮らしと仕事バランスについて。「連携」支援の輪、ピアサポートの輪。「福祉職（ピアサポーター、ピアス

スタッフも含まれます) バーンアウト予防～悩み相談～」。

- ◆ 統合失調症と並び精神疾病のもう一つの大きな病気である、いわゆる躁うつ病(双極性障害)に関する最新の研究・動向についてのプログラムもあると良いと思った。
- ◆ 家族の方、当人さんによれば、やはり、フォーラムに出演なさる方は何%かの人で、ほんのひとにぎりの成功者の方なのではないのか?!??は出ると思います!!やはり、今どん底にいる人、家族の声もあってもよいと思います!!!!成功者ばかり見せられるのでは、不自然になってしまいます。会場にこられなかったら、DVやテープでも、入院中からのDVでもよろしいのではないのでしょうか。
- ◆ 今回と同じようなプログラムが良いと思います。聞きたいものは沢山あるのですが、聞けるのは1つなので…。
- ◆ ピアサポーターの発表が多いのですが、実際の職員、家族の元気回復ワークショップがあれば良かったです。何だか、元気良いことが全てみたいな感じだったので、もっと悩んでいる利用者の声を反映させたプログラムがあっても良い。
- ◆ 宇田川さん*、伊藤順一郎さん*の発言が良かったので、来年も又、聞きたいです。*基調シンポジウム(1日目)、分科会に出演
- ◆ 今のままでokです。
- ◆ 当事者の方のお話がきけるもの
- ◆ 支援者のセルフヘルプ
- ◆ 普通に生きている当事者の方の紹介
- ◆ 基礎講座的なもの。いわゆる専門職とピアサポーターの連携等の地域事例。
- ◆ ピアスタッフの集まり、当事者として精神保健福祉の仕事に従事している方の話し合いの場。
- ◆ 当事者、当事者会の立場ですぐに役に立つ話を聴きたい。
- ◆ 境界線について
- ◆ 若年層のシンポジウム
- ◆ 障害者自立支援法改正にむけて、新しい法制度はどうあるべきかとテーマにしたプログラムを入れてほしい。当事者中心の法制度がつくられるために。
- ◆ 分科会形式はぜひ次回もあってほしいと思います。今年は震災という大変な時をこえ、いやこえてないけど、時の内容がもり込まれていて興味がわきました。辛い体験でない方がいいですが、来年も時の話がもり込まれるといいかと思います。
- ◆ トークライブ、シンポジウムでは、演者やシンポジストの方のお話しや意見をもっと活発に多くききたかった。もう少しテーマを少なくするか、2日間通してのディスカッション・振り返りができるものがあってもよかったです。それぞれのプログラムの内容は非常に濃く、自身によい刺激になった。参加してよかったです。
- ◆ 福島 or 宮城で行ったら (来年こそは被災地でやりましょう!!)。
- ◆ 引き続き「就労」について全体会でWRAPの活動をききたい。
- ◆ 若年期の人の参加できる体制が難しい。
- ◆ 各地域の取り組みの情報交換をする場。先進地域の情報を、もっともって知りたい。
- ◆ 医療(医師)、スタッフ(健常者)のつるし上げ。
- ◆ 実務的な話、ピアカンのノウハウ等をお伺いできるとうれしいです。
- ◆ 地域ごと(ex 茨城グループとか)に集まって情報交換とか仲間を作れる場があるといいと思います。
- ◆ 当事者からみたピアサポートのフォーラムがもっとあれば良い。
- ◆ リカバリ実践講座
- ◆ 認知「思い込み」を取りはずす
- ◆ WRAP、ACT
- ◆ 恋愛
- ◆ 今回のようなプログラムを希望します。
- ◆ WRAP
- ◆ 家族会と、当事者、参加したらよいと思います。当事者の参加が少ないので、だんだん増えてくればと思います。

- ◆ リカバリーの取組み方と成果。
- ◆ 第1分科会*に出たが、もっと現実の課題を話し合っても、おもしろいと思う。*第1分科会:リカバリー宣言
- ◆ 恋愛、結婚、性の話。
- ◆ Interprofessional Work や IPE (Interprofesional Education) の話があると、ピアサポーターの人も入ってやりやすいのかなあ、と思いました。また、他の病気の人たちの団体や患者団体などの人とのクロスオーバー部分も考えたらどうかと思います。
- ◆ まず、どんな人が参加するかについての想像をこらして本当に理念から運営まで誰でも参加できるフォーラムにしてほしい。健常者と対等に行動でき想像力が必要ない方たちを中心に運営が組み立てられている現状を崩して欲しい。全国各地の持ち回りにして欲しい。東京中心な活動に主催者の都合優先さが見えてしまいそうである。
- ◆ このような集まりに参加するのは初めてでしたが、トークライブのように味わう時間は自分の考え・思いの整理にとっても良いと思った。
- ◆ なかなかよいプログラムでした。
- ◆ 当事者が活躍している米国のピアサポートセンターの発表がほしかった。
- ◆ もっと当事者の方が前面に出るような会になってほしいと思います。
- ◆ グループワークがもう少し入るようなプログラムもあってよいと思います。(とくに家族のところ)
- ◆ トークライブは全体的にとっても良く、特にトークライブの「味わう時間」はととても良かったです。
- ◆ 分科会5*にあるような最新の脳科学の情報を必ず、入れることを望みたいです。*分科会5:アンチスティグマとリカバリー
- ◆ うつ病の認知行動療法など、リカバリーにつながる方法を更に具体的に知りたいです。(今回の IMR や WRAP のような・・・)
- ◆ 医療だけによらない代替医療の効果について。
- ◆ 専門職側のリカバリー体験について。
- ◆ ピアスタッフの集いがあるといいと思いました。
- ◆ どんどん新しいことを教えていただけると助かります。

※その他のご意見

- ◆ プログラムの数は多すぎると思う。分科会で公募のテーマが決まるのを待ったので申込みが遅くなった。公募する時期を早めて案内には載るようにしてほしい。
- ◆ 分科会の形が講義型、発表型、交流等ワークショップ型か明記していただくと参加しやすいです。
- ◆ 分科会は何種類か自由に出られる様にならないですか?参加したい会がたくさんありました。
- ◆ プログラムではないのですが、資料として、これまでの3回の分科会、それぞれの総括というか、話された内容が冊子などになっていると良い。毎年、あれもこれも参加してみたい分科会の中から、2つしか選べない。他の分科会も、せめて文字だけでもいいので知りたい。
- ◆ 懇親会も楽しいのですが、それぞれの分科会でもいいので、名刺交換や連絡先交換などを行える時間があるといいと思います。
- ◆ せっかくのディスカッション、シンポジウムが“時間切れ”というのは残念だと思います。3日間の開催にするとかテーマをもっとしぼるなどの工夫があると、よいように思いました
- ◆ 質問をもっと増やして欲しい。
- ◆ 時間:予定にゆとりを。
- ◆ 参加者の中には、車椅子の方々がいらっしゃるので、バリアフリーが完備された会場を選択して頂きたいと思いました!!
- ◆ 会場が別の所で2ヶ所でないほうがいい。
- ◆ プログラムではないのですが、一般参加の一日参加料金を設定してほしいです。(両日で9000円ではなく、一日のみの参加なら5000円など)

【問3】リカバリー全国フォーラム 2011 に参加しての感想をお聞きます。

※立場毎にグループわけ

① リカバリー” についてどのようなことにお感じになりましたか？

1) 「当事者」から

- ◆ WRAP はとても大切。
- ◆ 自分がここに來れた回復力を感じました。
- ◆ それぞれの視点で考え方は違って良いと思うが、「信じる。過度なふり返りはしない」ということだと感じた。
- ◆ 今だにリカバリーがのみこめない。忘れてしまうのだ。横文字を使用しないで日本語で！！
- ◆ 病からのリカバリーというよりも人生のリカバリーというのが印象に残りました。
- ◆ 「終わりなき旅」だなあーミスチルの歌が、頭の中に流れました。
- ◆ リカバリーは自分にとってのリカバリーであり、周囲の人もリカバリー出来るものであると思いました。
- ◆ まだわからないけど楽しいかも。
- ◆ リカバリーはそれぞれであるということ、ただそれをお互いに協力し合い、共同で行うことも重要であるということ。
- ◆ 自分の頑張り
- ◆ リカバリーとは1人1人の生きざまであると感じた。生きている、生きぬくことがリカバリーそのものである。
- ◆ まことにもっともな考え方だと思う。
- ◆ 元の自分にかえる必要がないことが理解できました。
- ◆ 言葉をはじめて知った。
- ◆ 回復することは元にもどるということではなく新しい自分さがしをすること。
- ◆ 「リカバリー」は人に言われて感じるのではなく、自分の内側から起こってくる変化だと思う。そのことを感じることでできない人にとっては、負担となり、時期を待つ必要もあると思う。
- ◆ これから自分が、築いてゆくものだと感じました。仲間を求めながら。
- ◆ ただいま PSW の勉強中で頭を整理しています。
- ◆ 皆さんの意識の高さと、うちでやっているピアサポートとは違うのかな、という印象を受けました。市からの委託金で潤沢にやれていた（過去形）のが大きいかと思います。
- ◆ リカバリーすることが仕事というのが印象でした。
- ◆ リカバリーっておもしろいな、リカバリーしている時って良いなを感じました。
- ◆ 少しわかったような気がします。
- ◆ 言葉の意味がわからなかったがイメージが少しわかった。
- ◆ よくわからなくなった。
- ◆ 直ること。
- ◆ 病気をのりこえて目指す人間像。
- ◆ 希望を持つ事。病状に一喜一憂しない。
- ◆ 本当のリカバリーとはなにか？と感じました。
- ◆ リカバリーは希望と思う。少しだけ前向きに考えられるきっかけとも思う。
- ◆ 私は大学生時代(1970年代)に発病しましたがそれ以後、民主的な学生運動などを通じて仲間たちと共に活動することで病気を自分なりに見つめなおすということを通じて現在軽快に向っている。
- ◆ 積極的回復。
- ◆ 分科会9*に参加し、発表者の方の話に共感しきりでした。私のリカバリーした生き方でいいんだなと感じることができました。私も今後、リカバリー体験を分かち合いたいです。*分科会9：「こんぼ亭」スペシャル

2) 「家族」から

- ◆ 当事者が生きやすい生き方が家族も安心できると思います。
- ◆ よい勉強になりました、知らない事もわかりました。薬も大切が本人と家族と話し合い、どうしたらよいか共に考えると、よいと思います。
- ◆ これから自分の家族がどのように実行していけるかいろいろと考えさせられました。
- ◆ 実践すること。だと感じます。続けること。
- ◆ 自分にも当てはめられること、誰にでも共通のものだったんですね（精神のみではなく）。
- ◆ 少し判りかけたかな？との程度なので、次回まで少し勉強していこうかと思っています。

3) 「専門職」から

- ◆ リカバリーにも広い意味があると思います。せめて、目の前にいる利用者さんの、やれなかった生活をとり戻す支援をがんばります！
- ◆ リカバリー＝単に回復ではないということをよく理解できた。
- ◆ もとの生活を取りもどすことだけをゴールとせず、自分らしく生きる、ということを目指するという考え方はとても新センでした。
- ◆ 現在進行形での、人生の取り組み。
- ◆ 回答に困りますが、なかなか日本語にしにくいので困りものだと感じます。
- ◆ 初日のシンポジウムで宇田川さんがおっしゃった「信号を自分の判断で渡ること」という言葉が何だかしっくりきました。”自分の判断”という言葉が”リカバリー”のキーワードになるのか・・・と思います。
- ◆ お祭りのな所と核になる所とが自然につながってないように感じた。
- ◆ その意味と重要性について、確認する事が出来ました。体験している宇田川さんのお話からやはり、早期のリハビリが重要と感じました。また、患者様だけではなく、ご家族、支援者、地域もリカバリーは必要であり、つながってきている（少しずつですが）と感じました。
- ◆ 国民全体で考えていかなければいけないことだと考えました。
- ◆ まだまだ、これからだと思いました。自己反省もふまえて、考え直す機会となりました。
- ◆ 与えられるものではなく、自分で形づくっていくものだと痛感しました。
- ◆ リカバリーという言葉を知ると、常に思う。リカバリーとはゴールなのか、その途中、経過を指すのか。色々勉強しても、まだ疑問なままだ。
- ◆ 思った以上に、成長発展する概念だと分りました。日本型リカバリーについての研究掘り下げをお願いしたい。
- ◆ 回復ともまた異なって、当事者も支援者も家族も一緒に成長していくことなのだなと思った。
- ◆ 宇田川さんのいつもリカバリーしているという言葉に納得ができました。支援者はまずそのことを認め、自らもリカバリーしていかなければならないと思いました。
- ◆ 元に戻るのではなく、成長することであると分りましたが、なんだかまだあいまいです。実際にはどのような状態からリカバリーであるのか、色々な方の話を聞く度に混乱していったように感じます。それだけ多種のリカバリーがあるのだということは理解できました。
- ◆ わかりやすく力強い響きでよい。毎日の積みかさねプロセスを大事に今を生きること、今の日本人にとって大事なこと。
- ◆ おしつけ医療ではなく「自分たちから」の考え方。
- ◆ とても大切なことだけど、実現していくのはすごく難しそうだなと思った。私は精神科HPでOTをしているが、とても古い体制で、スタッフの中に「リカバリー」という理念を受け入れてもらえるかわからない。リカバリーの実現には熱意のあるスタッフが何人か集まって必要性や重要性を訴えていかなければならないと思った。
- ◆ このようなフォーラムを開催していただき、参加出来たことを非常にうれしく思いました。リカバリーについては、これからもっと勉強していかなければならないと思いました。

4) 「行政職・議員等」から

- ◆ いつでもどこでもできるものなんだとおもいました。
- ◆ リカバリーは日常生活の中でおこるもの。そしてそれは、どんな境ぐうにあらうとも…。リカバリーを理解している人と人のおこるもの。

- ◆ 専門家は、真剣に取り組んでいかなければいけないことを、改めて深く認識することができました。
- ◆ 病気だけに焦点を当ててではなく、生き方について焦点を当てているところが前向きな感じがした。

5) 「ボランティア・一般市民」から

- ◆ 精神保健福祉の分野において、「リカバリー」という理念が如何に重要か、中核に置かれなければならないかについて、改めて認識することができた。
- ◆ 直ること。

6) 「学生」から

- ◆ 宇田川さんの「入院して拘束されている時もリカバリーしていた」というお話に、リカバリーは周囲が押しつけるのではないというリカバリーの本質をみた気がします。
- ◆ 病からのリカバリーというよりも人生のリカバリーというのが印象に残りました。
- ◆ 対象者が主体性をもっていく。
- ◆ まだ認知度が低く、未確立なためもっと啓発していく必要があると感じました。
- ◆ “リカバリー”の定義は人それぞれだと思った。

7) 「その他」の立場から

- ◆ その人らしく、その人の人生を生きて、振り返ったとき、何か胸のうちに大事にとどめておきたいことがあったり、“ああよかったな”と思えるのがリカバリーなのかなと思いました。今後も考えていきたいです。
- ◆ リカバリー→生きているすべてに共通できて、素晴らしい言葉、意識、理念だと思いました。
- ◆ 少し理解出来たような気がする。

② 後の生活や仕事などに生かせることは発見できましたか？発見したことについて、お書きください。

1) 「当事者」から

- ◆ 年が年なので働けないのですが、家計を想うと私も働きたいです。ちいきの人に相談したいと思う、意欲が湧いてきました。
- ◆ 信じること。
- ◆ 自分の立ち位置（ピアとか支援者とか）で悩んでた事の答え。
- ◆ 時間配分が出来ないので円グラフを作ろうと思う。IPS 就労の方が参考になった。
- ◆ 豊かな世界。
- ◆ 分科会での仕事に関する話で、障害者雇用で3年弱働き、正直悩みも多かったのですが、様々な視点を聞いたことで少し気持ちが前向きになりました。
- ◆ 自分も閉鎖病棟にいた頃からリカバリーしていたんだと宇田川さんの話を聞いて思いました。
- ◆ 自分の追求
- ◆ 欲張らないことの大切さ。
- ◆ IMRを知って会に紹介しようと思う。
- ◆ 自分が主体であることを認識できたこと。
- ◆ いろんな考え方や人に出て学習できてよかった。
- ◆ 9月から、「ピア・スタッフ」として働き始めていて、タイムリーな企画だった。漠然とした不安は解消されていないが、相手の感情の奥にある本当の思いに気づけるようになりたい。
- ◆ 多数の人と知り合いになれました。ピアサポートについて情報も得られました。みんなが何かをつかんでいる中で、私も積極的に仲間や仕事や資格をゲットしたいです。
- ◆ 友人で別の難病をもち、かつ完全クローズで生活している人によりそってあげたいと思いました。

- ◆ ピアスタッフにならないかと誘われていますが、どの位がんばって、どの位休めばいいのかバランスが分らずにいました。「コンボの理事ですが午前中はフラフラしています」という言葉に、それでいいんだと思いきりました。
- ◆ 仕事を続けるコツ。
- ◆ 生きてるだけで幸せだと感じました。
- ◆ グループでのピア活動に役立つと思う。
- ◆ なかった。
- ◆ ピアについて、今 多くの方が、興味をもっている事。
- ◆ ピアカウンセラー
- ◆ 笑顔とリラクゼーション
- ◆ ピアサポートの勉強をしてみたいと思いました。
- ◆ 仕事を続けるために必要な事が分かった。ラップで新しい考えを教えてもらった。
- ◆ いろいろな情報が得られて、自分の生活や考え方の幅が広がった発見があった。
- ◆ そこで薬が軽いものになったので、おさえがとれて、思いこみによる暴走がまだある。これを、どの様になおして行くのかということが、新たな課題だと思う。
- ◆ リカバリー宣言
- ◆ ピアサポートができればと思っています。

2) 「家族」から

- ◆ 自分の知識のなさ、情報量の不足を痛感しました。勉強していきます。ありがとうございました。
- ◆ 上記のことにつながります。“リカバリー”は、現在の生活の中でもあり得るということ。
- ◆ 障害があっても自立の道をあきらめてはいけない事わかりました。来年は家族で参加してそれぞれの抱える問題に道を見つけたいと思います。
- ◆ 子どもの病気について、そのまま受け入れ、受けとめていけるようにしていきたい。
- ◆ 年が年なので働けないのですが、家計を想うと私も働きたいです。地域の人に相談したいと思う、意欲が湧いてきました。
- ◆ 家族会（自分も含めて）内外にリカバリーを伝えたい。
- ◆ これまで長く家族として、又、職員として考え思ってきて 自分なりの道筋が見えてきて、でも時にはこれでいいのか…と悩み迷うことも多々ありましたが、間違っていなかったと確信できました。
- ◆ 当事者が変化できる働きかけができればと考えています。ピアサポート、WRAP活動について深く知りたい。
- ◆ 当事者の気持をよく聞き対応して共によい方向にいきたい。
- ◆ 全国的にリカバリーが盛り上がり来て心強いです。家族で、地域で実現する為に努力していきたいと思います。息子がピアカウンセラーとして活動出来るようになればとも思いました。
- ◆ 休養。つながり。支えあい。
- ◆ 家族会で、テキスト含めて活用させていただきます。
- ◆ うっすらと見えて来たような状態なので不明。

3) 「専門職」から

- ◆ ピアサポーターの視点と存在をデイケアプログラムにとりいれたい。
- ◆ リカバリーすることを信じるということ。
- ◆ 自分の生活支援のことを地域に知らせ利用してもらう地域の機関と連携がもっと必要。今回得たことは、実践でいかせるようにします。
- ◆ 精神看護に関わってすぐに感じていた気持ちを再確認出来、初心忘れる事なく今後も当事者、病院での患者様に関わって行きたいと感じた。
- ◆ 分科会の「医療の場とリカバリー」では濃い内容のディスカッションができ、病院スタッフとして今後の運営に生かしていきたいと思います。
- ◆ 当事者の人たちに、私が知った情報を伝えていきたい。プログラムの中で、どのようにいかせるか考えていきたい。

- ◆ ピア・サポーターの声をはじめて生で聞きました。ピア・サポートは普段のメンバー同士の中で半ば自然発生（時には専門職がGW等を通して作っていく部分もあると思いますが）にうまれるものが多い部分もあると思います。ピア・サポーター、当事者スタッフとして働く人の声の中から私が今後課題としてあげている「ピア・サポートに対する専門職のかかわり」が少し見えてきました。
- ◆ 利用者のリカバリーを疎外していた支援者になっていた気がした。（医学モデル。）
- ◆ ピアサポの概念を広げたい、認知を広めていきたいと考えました。やはり、コンクリートの中でなく、地域でもっと仕事がしたい。
- ◆ まず本人の希望、思いを聴き、本人の思いスタートで本人がとりくむことを手伝うようにたい。
- ◆ 自分の働いている地域の他施設の人たちや他県の方たちと話をすることの大切さ。
- ◆ 当事者の方々の意見や思いが大変参考になりました。
- ◆ 現場で展開していくことはまだまだ課題である。
- ◆ 就労支援において日々作業現場に入らなくてはいけないと、そっちにばかり気をとられて、利用者一人一人の思いや考えをしっかりと聞いてないなと思った。
- ◆ リワークでのビジネスゲーム。
- ◆ 支援者として、ピアの方に協力してもらえることが沢山ある事に気付きました。
- ◆ 当事者とともに、精神保健福祉分野を発展させていきたいですね。
- ◆ とりあえず、自分にも仲間が欲しいと思ったので、職場の中で、日々看護に葛藤を抱いている仲間と話しをする場をつくりたいです。
- ◆ 信じて寄りそうこと。リカバー 実践し続けること。
- ◆ 情報提供の必要性
- ◆ IMRやリカバリーを促進するような援助を具体的に知れた発見できた。
- ◆ 利用者の主体性、リカバリーについて常に考えていきたい。
- ◆ 発見のようなことが無くて残念。
- ◆ 自分が今やっている仕事、良かれと思って推進している地域移行の土台づくりは、支援者としての自分の思惑があったのかもしれないということが発見できた。当たり前なことだけど、目の前の利用者さんや患者さんの”声”を聴いて一緒に考えていきたいと強く思った。
- ◆ ピアサポートについて調べてみたいと思いました。スタッフの役割は変えるきっかけ作りという言葉が印象にのこりました。肝に命じて仕事していきたいです。
- ◆ 何しろ動くということ、当事者の声を聞けたこと。
- ◆ まだまとまっていませんが たくさんありました。
- ◆ 震災の話聞いていても、やはり、人は人によって生かされているなと感じました。その中でも、同じ立場におかれている人によるサポートは、より力になると思います。だからピアの力はもっと生かすべきでしょう！
- ◆ 少しずつでもよいので、実践していく。
- ◆ 休憩時間に出会ったピアサポーターの方と話をし、リカバリーについて専門職からの視点ではない考え方を聞かせてもらったこと、語ることの重要性。地域によって差があることだから無理しなくても良いという聞き直り。
- ◆ 家族支援について勉強になった。
- ◆ リカバリーは一辺倒に歩めない。良いこと悪いこと白黒はっきりせずとも、リカバリーにつながると信じて行動してもいいのかもしれないと思えたこと。
- ◆ 日々の忙しさに追われているのですが、その中でもきっと「リカバリー」につながる何かがあるんだろうということ。
- ◆ 今の職柄、退院支援をする中で、ピアサポの皆さんとの関係づくりや、フォローアップなどを形づけていった方が、お互いの健康のためにいいなあと考えました。また、県内の情報もキャッチしていきたいです。
- ◆ 家族による家族学習会を実現できるように考えてみたい。
- ◆ 人とのつながり、相手を理解することを大切に、職場では自分が関わる方にきちんと向き合い、かけはしになること。
- ◆ もっと社会全体で精神障がいへの理解は必要な気がする。もっと、当事者の方が社会にアピールした方がよいのではないか。
- ◆ やはり、言いたいことは発信しなければ何も変わらない。仕事をかえねばならないかもしれない。

- ◆ また、仕事しようと気になりました。どれをとという事でなくそんな思いになりました。
- ◆ 私の職場は、みんなでやろうという雰囲気だが、1人1人やりたいこと、リカバリーはちがうということを広められたらと思う。
- ◆ 支援者目線の破壊をしていきます。
- ◆ まずは、利用者の声（心）に、耳を傾けることの大切さを改めて学びました。基本ですね。
- ◆ 当事者だけではなく、家族に対する支援やかかわり方。
- ◆ いつからでも、どんな状態からもリカバリーはスタートできる。
- ◆ 今年の講義のネタにできることがいくつか・・・。
- ◆ ”リカバリー”という言葉自体が「何??」というのが現場の実態です。まだまだスタッフ主導が強い中、1人でも多くのメンバーさんの”体験”をメンバーさん本人からまずはスタッフに伝えていくことが大切かと思っています。
- ◆ 当事者の方々が元気なのがよかった。
- ◆ 家族支援の方法について検討する機会になりました。現在、定期的に開催していますが、今後次のステップに進めるために、具体的なアドバイスをいただきました。除々に全国のご家族の皆さんと交流できていければもっと回復が進み、地域の偏見も変わるのではないかと考えます。
- ◆ ピアサポートができればと思っています。
- ◆ ACTについて前向きになれた。
- ◆ 職場の仲間、専門職、当事者、自分の大切な人と共に語り合うことをはじめたいと思います。
- ◆ 家族会で、テキスト含めて活用させていただきます。
- ◆ リカバリーの概念を再度確認でき、少しずつ周囲に伝えていければと思った。
- ◆ あらためて、生活モデルについて、自らの支援方法とてらしあわせて考えることができました。
- ◆ WRAPのようなクライシスプランなどは職場でも、じぶんにとっても役に立つと思いました。
- ◆ IMR
- ◆ 参加したことで知識が出来ました。

4) 「行政職・議員等」から

- ◆ あるがままをうけ入れる。→存在するだけで価値がある。（職場で）支援する上で…。日常の精神保健福祉ネットワークの大切さ。（あらためて実感）
- ◆ 専門家は、当事者と対等の関係性をつくっていくことを目指さなければ、精神領域は変わっていかないと感じました。
- ◆ すてきに生きている当事者のご様子を、知った。
- ◆ 当事者の語りたいこと、思っていること、生の声をきけるのはとてもありがたかった。学べる場にできた。
- ◆ IMRをやってみたい。

5) 「ボランティア・一般市民」から

- ◆ 現在、社会人のしかも50代半ばにして、精神保健福祉士の資格取得を目指して、大学の通信教育にて勉強中であるが、再度自分自身の志望の「志」を貫く動機付けになった。また、ピアサポートの考え方も大いに参考になった。

6) 「学生」から

- ◆ 信じること。
- ◆ 海外と比べ、日本は精神障害者の入院者数が多いことを知ることができました。しかし、よく考えてみると海外の国は医療をしっかりと受けられるのでしょうか？医療を受けていない人、診察を経済状況から受けられないことがありませんか？だから入院者数が少ないのではないですか？海外のマネをしたがることや遅れていると思う必要はないと思います。日本独自のやり方でいいと思います。それを発見しました。
- ◆ 今回は、震災に関する内容も多くあり、たくさんのことを考えさせられました。一番感じたことは、人として、「人同士のつながり」ということは非常に重要であるということです。どんな時でも、人とのつながりは財産になると思うので大切にしていきたい。

- ◆ ピアサポートの大切さ。

7) 「その他」の立場から

- ◆ 宇田川さんのお話で、” どんな人でもどんな状態でもリカバリーできる” ということが解り、希望になりました。
- ◆ 今している事が毎日続いていると、マンネリ化してしまい新鮮さがなくなってしまっていたが「あ、今している事でいいんだ！」と再確認できました。
- ◆ これまで長く家族として、又 職員として考え思ってきて 自分なりの道筋が見えてきて でも時にはこれでいいのか…と悩み迷うことも多々ありましたが 間違っていないかと確信できました。
- ◆ 自分を見つめ直す事の大切さをした。

③ 今後、リカバリー全国フォーラムにどういったことを期待されますか？

1) 「当事者」から

- ◆ コンボの運営がきびしいのなら、参加費を上げれば良いと思います。当事者が2日で千円は安いと思います。
- ◆ 分科会はテーマをしばらくは変えて欲しくないな。いろいろ聞きたいものがあるが。
- ◆ 毎年続いて行って欲しい。
- ◆ 特になし。
- ◆ 行政、企業、市民を巻き込むこと。
- ◆ 全国にリカバリーの考えを広げてほしい。
- ◆ 毎年開催して欲しい。
- ◆ 豊かなこと。
- ◆ 毎年この場があることを期待します。
- ◆ こういったフォーラムは他にないと思うので、これからも当事者、支援者その他に関わらず参加し、話し合い、協働できるような場であって欲しいです。
- ◆ 後方援護
- ◆ リカバリー
- ◆ 精神障がい、(精神障がい者)についてのすべてのスティグマの払拭。
- ◆ このフォーラムに限らず、コンボで手がけている仕事は全般に密度、精度が低いように思います。いろいろなプログラムを立ち上げることに力を入れている関係でそうなるのだとは思いますが、今後はこういった事をマスコミに取り上げてもらってTVで全国放送すると良い。
- ◆ 言葉にとらわれない体験がある。
- ◆ 全国の仲間との有機的なつながりから、既に生まれている。そのつながりが、もっともっと広がってほしい。
- ◆ 厚労省の「圧力団体」になるような(?) パワーを持ってほしい。
- ◆ 当事者の体験談働くストーリー。
- ◆ 今度は近畿でやってほしいです。
- ◆ 「リカバリー」の言葉の意味をわかりやすく、国民や精神科医にも参加してもらいたい。
- ◆ もっとテーマと話の内容を明確にしてほしい。
- ◆ ピアのブレイク
- ◆ 当事者も家族も、医師も、研究者も精神保健福祉に関わる人が一同にあつまって「リカバリー」を同じ立場で学びあえる場が作られたことは、とっても素晴らしいです。毎年とても楽しみにしています。7～8月と重いうつ状態で参加できるか不安でしたが、メ切りがのびた間に回復して、参加でき、また今年も素敵な出会いができて大変満足です。
- ◆ さみしさ、こどく感のかいしょう。
- ◆ 継続
- ◆ 前回や今回の様に当事者が発言できる場であってほしいです。病院関係の方の話しも聞けるどちらの生の声が

聞けると良いです。

- ◆ 毎年続けてほしい。
- ◆ いろいろな情報の提供（精神保健福祉の最新情報や他イベント等情報）。病気や障害の正しい知識の提供。
- ◆ 現実の問題で各人への援助を、行なって行くことが必要だと思う。
- ◆ 自分の人生を楽しんでいいんだってこと。
- ◆ 時間が限られた中ではあるのですが、もっと、リカバリー体験について話せる時間が欲しいです。

2) 「家族」から

- ◆ 当事者が当日参加できるということはすごいことです。わが子は、今日の様子では不可能です。（閉鎖病棟に先月入院しました）ですから、全国からここにきた当事者さんの声をできるだけとりあげていける会になればよいと思います。
- ◆ 同じ障害を持った当事者、家族、支援者そして医療者が一つになって社会が働きかけるために何をしてくか具体的な方向を見つける集まりであって欲しい。
- ◆ 最新の医療情報を知りたい（統合失調症の病気について）。行政、福祉政策の最新の情報・いろいろな立場の方々の話を伺いたい。
- ◆ TV（新聞）を呼んだり、認知を広めたいです。（もう呼ばれていたらすみません）
- ◆ 現場で地域での人材教育
- ◆ 九州の田舎から出てきました。田舎から出てくるのは本当に大変ですが、これはどうしても行きたいと思うものを自分で吟味しています。このようなすばらしい大会が少しでも近い場所であればたすかります。
- ◆ 現在も引きこもっている青年達へ、呼びかける方策について。
- ◆ 現状や、動向が具体的に解りやすく知りたいと思います。
- ◆ できたら当事者にも参加して頂いたらよいと思います。
- ◆ 難題はあると思いますが全国でもっと活動が盛り上げていかなければと考えています。
- ◆ 仲間の集まり、語り合いが楽しい。
- ◆ 地元からももっと参加者が増えることを望み帰ったらPRしたいと思います。
- ◆ もっと知らせしてほしい。（知らせましょう）
- ◆ テキストを作った実施場所でその場で覚えて行かれるものであって欲しい。

3) 「専門職」から

- ◆ もっと具体的な実践を知る機会や交流。
- ◆ 当事者、支援者がなんでも言える場にしてほしい。
- ◆ 続けていくこと。いろんな分野からの参加があり、今後もそれが続いていくこと。
- ◆ ぜひ続けていただきたい。
- ◆ 毎年大変だと思うが開催を続けてほしい。誰でも気軽に参加出来るように、メディアを使って宣伝しても良いと思った。
- ◆ 日本の精神医療を変えるくらい大きい会だと思います。期待しています。
- ◆ 当事者の方、専門職の方など様々な人との出会いを通して、全国に仲間をもつことができることを期待します。
- ◆ 本人主体であるリカバリーの主旨から、当事者・家族・スタッフなどが対等に参加し、当事者が積極的に発言・発信していく場にする事。
- ◆ 継続されること。1ヵ所しか分科会がみれないのが残念だったので、色々な講習がきけるといいです。
- ◆ リカバリーをめざす地域での活動が小さな取組みでも紹介する場となり全国的に広げる力になってほしい。
- ◆ とにかく来年も続けて下さい。
- ◆ 今回の様な支援者側からとご本人（当事者）、ご家族の思いを聞ける会を期待します。
- ◆ 講演や分科会で使用されたスライドなどをWebにupして欲しいです。専門職の方の話だけでなく、いろいろな場所、立場で苦勞ある人たちでグループSTTなどができたら（会場で）楽しそうです。
- ◆ 継続してほしい。

- ◆ 最新の事を提供していただければ良い。期待しています。
- ◆ 毎年の実施を期待します。
- ◆ 「就労」「就労支援」
- ◆ 職種、立場、関係性等々を超えての交流・意見交換・一般の人々の参加→企業・教育・家族・ボランティア・・・などの参加。元気が出るイベント的なものの催しも・・・。
- ◆ 発表者と会場とのやりとりがもっと多くなると良いと思いました。
- ◆ もっともっと討論の時間があるとおもしろいと思います。
- ◆ 東京ばかりの開催では、地方の利用者は参加しづらいです。フォーラムの開催場所を関西でもお願いしたい。有名な先生方の話以外の内容を聞いてみたい。
- ◆ 研究者中心にならないこと。分科会の時間を増やして、生の声をききあってもいいかもと感じる。昨年も書いた？かも。
- ◆ 「リカバリー」の考え方がより広がっていくことを期待しています。
- ◆ これからもありつづけていただきたいこと。
- ◆ 新しい動き、（法律や医療（薬物、治療）の情報など）についてを理解できるものと同時に、その中でのリカバリーについて。
- ◆ 当事者・Dr・家族・支持者と様々な立場の利権でしか考えていないと思う。
- ◆ 提言団体なら難しいかもしれないが、会の宣言をするのもよいかも。
- ◆ 勉強する場をみせていただきたいと思います。
- ◆ 一般企業や市民の参加がもっと増えるとよい。
- ◆ リカバリー、ピアカウンセラーが全国各地に拡がり、定着すること。
- ◆ がんばる気持ちがうすれないよう、このような機会をつづけてほしいと思っています。
- ◆ 社会に対する働きかけ
- ◆ 各地域でのピアの活動と、その地域の独自のそれを活かす制度、システムなどを事例として発表する場があると、刺激を受けたり、ヒントを得られるのではないかと思うので、その発表の場になることを期待したい。
- ◆ “リカバリー”の先進地域とそうでない地域との間には、大きな差があるかと思います。現場で温度差があると、バーンアウトの要因にもつながります。リカバリーの種が、もっと広く、かつ自然にまかれるようなフォーラムになることを期待します。
- ◆ お祭りさわぎやはみ出しが許容される本当の当事者が排除されないフォーラムがあると嬉しい。（学会みたいで型苦しさが多かった）。
- ◆ 全国へ発信していただきたいと思います。支援者の参加が増えていけば、いいと思います。役立つ情報提供・課題解決につながる、分科会運営。
- ◆ 継続は力なり。とにかく続けて欲しい。
- ◆ 今日のみなさんと思いの確認をし、元気をもらえる場として意見交換ができる場があるとうれしいです。
- ◆ このフォーラムで何か提言がされて、それが行政に伝わり、新たな事業の創造や法の改正などへつながれば素敵だと思う。
- ◆ 大島さん*がいわれていた運動体としての動きを期待します。リカバリーについての研究会を全国で展開して下さい。*基調シンポジウム、分科会等
- ◆ 続けて欲しい。
- ◆ ぜひまた開催して欲しいです。

4) 「行政職・議員等」から

- ◆ 是非医療職の方にもきいていただきたい。
- ◆ リカバリーを精神保健福祉支援上の基本的な理論とすることを更にすすめる。新たな自分になる。
- ◆ 発表のレジメは冊子 e t c で配布してほしいです。
- ◆ 今回と同じような分科会。

5) 「ボランティア・一般市民」から 米コメント欄の記入なし

6) 「学生」から

- ◆ 当事者の方、専門職の方など様々な人との出会いを通して、全国に仲間をもつことができることを期待します。
- ◆ 行政、企業、市民を巻き込むこと。
- ◆ 疑問に感じることもありますが、帯広など地域へ退院させていくと病院の経営が悪くなりませんか？新患の入らない病院は経営できず、つぶれていくと思います。地域へ退院させることは良いと思いますし、活動も良いことだと思います。しかし、病院側の経営やそこに働く人達の生活は苦しくなっていくのではないかと思います。そのあたりについてもシンポジウムや講演で話すといいと思います。
- ◆ 進行がスムーズであること。

7) 「その他」の立場から

- ◆ 今後も色々な関係者たちが集い意見共有できる場だと思っています。
- ◆ きめ細かいメニューで、実行委員の御苦勞も伺われます！！今後のフォーラムもお任せします。年に1回の東京研修で自分のリカバリーが前に進める様にして下さい。
- ◆ 昨年より分かりやすくよかったですので、更なる向上を！
- ◆ 仲間作り、意見交換

【問 4】 リカバリー全国フォーラム 2011 の運営についてお聞きします。

※代表的なものを抽出

①開催時期や会場の場所・使いやすさはいかがでしたか？

★「2会場での開催」について

- ◆ 東大と文京学院大が少し離れていて、移動で多少疲れしました。また東大の安田講堂の場所に対する周知が少し甘かったのでは？と思います。
- ◆ 安田講堂から文京学院まで遠い。
- ◆ 東大から文京大まで、外が暑く移動に少し疲れた。
- ◆ 2会場になり会場案内が駅に早くから配置し9、月9日の記念講演は文京学院大学でやると行ってしまった。資料集に会場を明記してもらいたい。
- ◆ 移動がつかったです。
- ◆ 全体会と分科会の場所が分かれていたのは良かったと思う。

★会場について

- ◆ 安田講堂は良かった。2会場は問題だがフォーラムの品位を高めた。
- ◆ 東京大学が午前の会場？！！には、驚きびっくりしましたし、50すぎて東京大学の門をくぐるなんて夢にも見ない光景となりました。時期もOKです。東京大学のボールペン15本おみやげに買いました。
- ◆ 文京学院大学は、駅に近く、設備もよいので、キャパの問題もあるとは思いますが駅に近いほうがいいです。冷房が効きすぎて寒かった。
- ◆ 安田講堂は、飲食禁と言う事で、ちょっとつかったです。

★アクセスについて

- ◆ 会場は東大の位置がわかりやすかったが初め昨年の場所に行ってしまったのでチラシに大々的に書いて欲しかった。
- ◆ 案内に会場への交通経路や、最寄の駅等の案内があればよい。

★時期・曜日について

- ◆ 土日開催がのぞましい。平日仕事の方は休みとりにくいと思う。友人2人が仕事の関係で参加できなかったので・・・。
- ◆ 開催の曜日2日のうち一日は土曜日に。平日2日は家の事情もあり、負担。
- ◆ 可能であれば、4～5月ぐらいの季節はどうでしょう？（全体的にその頃の行事・イベントが少ないので予定を組みやすいです）
- ◆ 開催時期はもう少し過ぎしやすい時期、10月などが良い。
- ◆ 開催時期は、丁度良いです。秋はイベントが多くあるので、この位の時期が良いです。

★その他

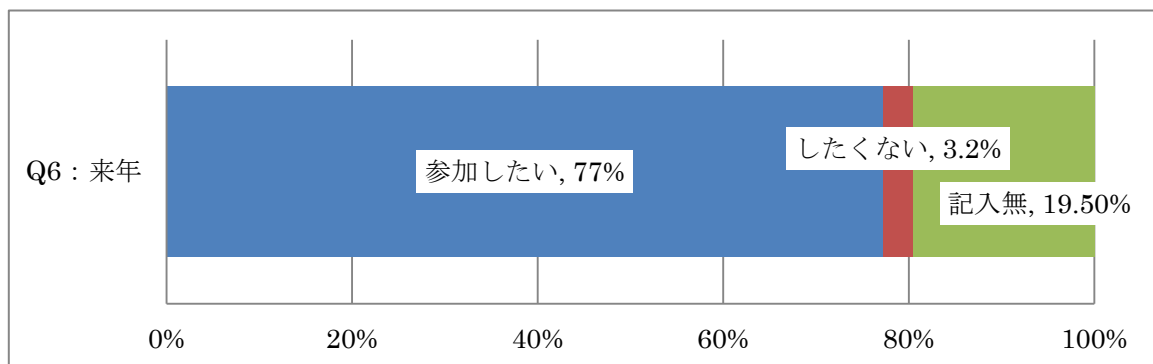
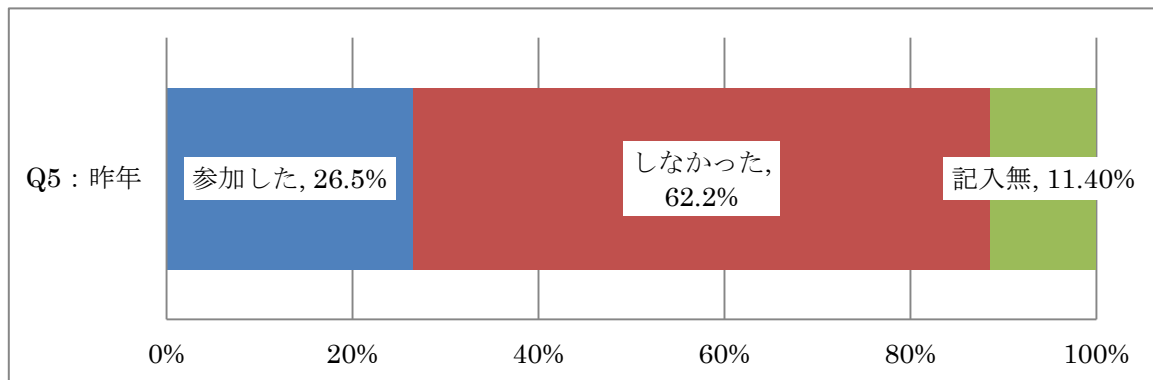
- ◆ 開催時期は良かったと思うが、広報・申し込み期間が短かったと思う。よって、参加者が少なかったのではと思うと残念・・・。

② 当日の運営はいかがでしたか？スタッフの対応など、お気づきになったことをお書きください。

- ◆ 会場がわかっていないスタッフが数名いました。
- ◆ 大学生のアルバイトスタッフは今ひとつ。
- ◆ 今年は、おとなしい案内スタッフが多かったのかな・・・？「おはようございます！」と元気に声をかけてもらえるとうれしかったかな～。
- ◆ 安田講堂の近くにスタッフが立っていたが、それより、駅の近くの十字路等、迷いそうな所に立っていてほしい。あいさつされるのは良い。
- ◆ 道案内をしてくださっている人は、あいさつや声出し誘導をしてくれるとよりよいと思いました。
- ◆ 学生スタッフさんの対応がよかった。おもてなしの心で接してもらいました。
- ◆ 若い学生さん達が、きめ細かく声かけてくださったり、迷ったり、困ったりしても、とても安心しています。御苦様です。
- ◆ 会場の所々に案内スタッフが配置されていて、対応もとても丁寧で助かりました。1日目（トークライブ）に司会の方が時間が押して昼休みに超過するとなった時、きちんと、フロアに了解を得ようとしてくれていたのが良かったです。とっても良い対応でした。
- ◆ 親切で良かったです。人が立ってくださっていましたが、看板や貼り紙もほしいです。無理でなければ…。
- ◆ クロージングで小グループにわかれたが時間が少なすぎて昨年のように話せなかった。もう少し時間が欲しいです。
- ◆ 皆さん、おつかれさまでした。

【問 5】 昨年度、開催されたリカバリー全国フォーラム 2010 には参加されましたか？

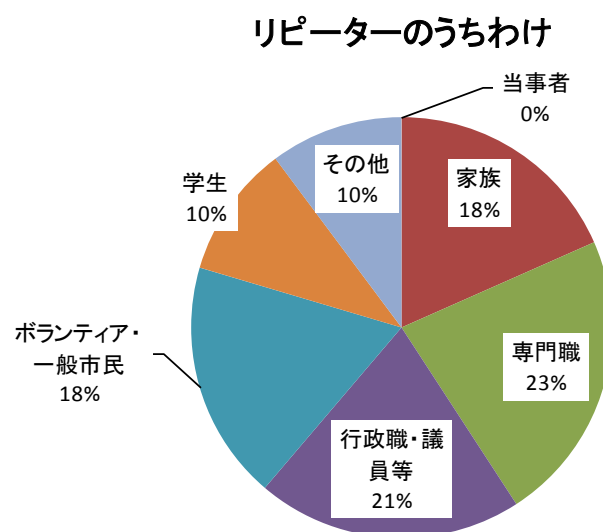
【問 6】 来年度、リカバリー全国フォーラムが開催された場合、参加したいと思いますか？



【問 5/参考】 リピーターのうちわけ（お立場ごと）

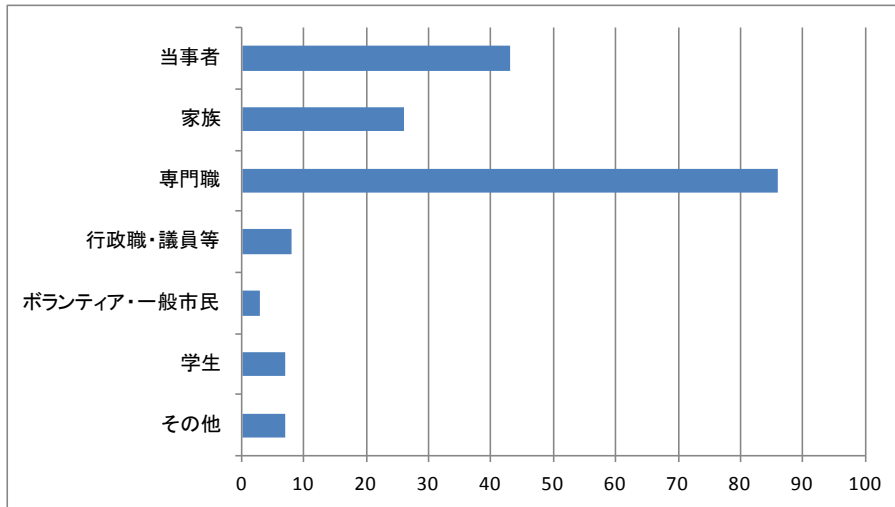
※リカバリー全国フォーラム 2010、2011 と続けて参加した方

当事者	0
家族	9
専門職	11
行政職・議員等	10
ボランティア・一般市民	9
学生	5
その他	5
計	49 人

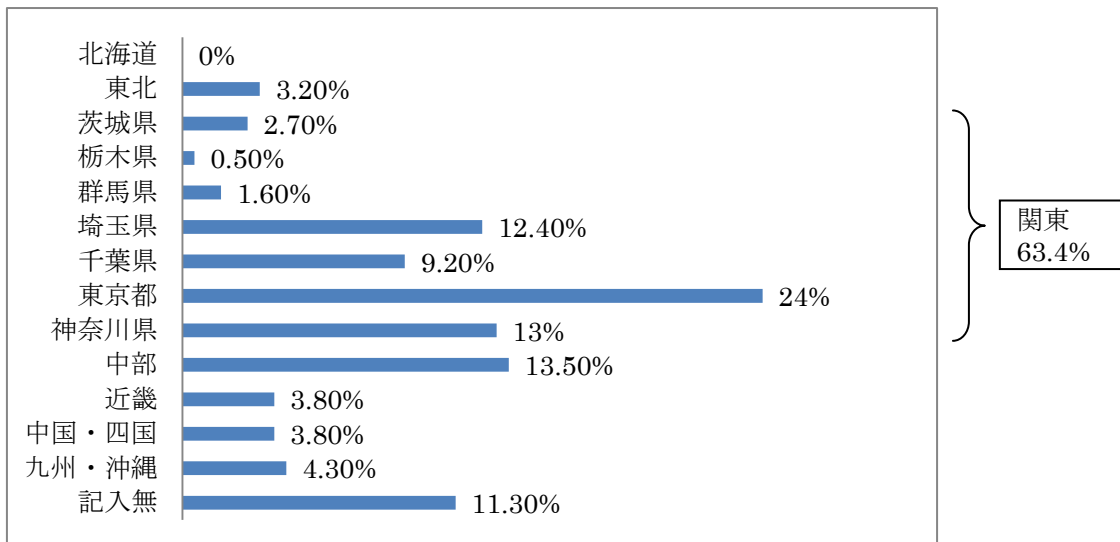


【問7】あなたご自身についてお聞きます。

① あなたの立場は以下のどれに当てはまりますか？



② どちらからいらっしゃいましたか？



③ 年齢を教えてください。

